

【通信機能】

この機能は現在各補聴器メーカーが特に力を入れている機能です。これまでは別売りのインターフェースを使用してTV、電話、オーディオ機器と接続するだけの機能でしたが、最近急速な進化を遂げて、現在では大別すると3つの分野に広がっています。

第1はiPhoneなどの携帯電話と補聴器が直接つながったことです。これにより、携帯電話をリモコンのように使いながら補聴器の微調整が出来るようになりました（出来る内容には制限がありますが）、通話も音楽も聴くこともできます。また、携帯電話が持つGPS機能を活用して補聴器がどこにあるか調べることもできます。これは紛失したと思った時にとても役に立ちます。

第2は「NMF I（近接場磁気誘導）」と「外部機器接続を可能にする2.4GHz」というツインリンク通信システムを搭載した補聴器が出てきたことです。昨今IoTの時代になったと言われていますが、補聴器もその仲間に加わる時期が来た感があります。他社に先駆けて、数あるWebサービスを連結させて相互に情報のやり取りを可能にするIFTTT（イフト）を活用できるようにしたオーティコン補聴器様は、インターネットを通じて様々な機器と接続することが出来るようになります。それぞれの機器とは別途対応する機器が必要なので具体化はこれからですが、この機能によって補聴器の利便性ははるかに向上するでしょう。他の補聴器メーカーも相次いで機能を搭載することは間違いありません。第3は装用者が自宅に居ながら補聴器の調整を受けることが出来るようになったことです。GNヒアリングジャパン様が先駆者となったこの機能は、現在は装用者がメールなり電話で要望事項を販売者に伝え、その要望を受けた販売者が店舗内のPCで調整を行い、その後、携帯電話経由補聴器とつないだ上で補聴器の調整内容を変更するやり方ですが、近々、装用者と販売者がTV電話や携帯電話で話をしながら、リアルタイムの調整が行えるようになると思います。アフターケアの大改革と行って過言ではありません。